

平成 30 年度奥州市病院事業報告書

1 概況

(1) 統括事項

ア 病院事業全体としての状況

平成 30 年度の病院事業は、急性期医療から慢性期医療、在宅医療に加え、医療資源が不足する地域への診療の提供を行い、地域の医療ニーズに応えるべく医療機能の充実に努めてまいりました。

総合水沢病院においては、地域に開かれた病院として、地域住民が病気や医療についての知識を深め、健康増進・維持に役立てることを目的とした「水沢病院医療講座」を開催し、予防医療から専門的治療までを行う医療機関としての役割や機能の向上を図りました。

また、まごころ病院においては、入院患者の在宅復帰に向けたきめ細かな医療・支援を提供する「地域包括ケア病床」を一般病棟内に 9 床設置し、医療の質を高めるとともに、収益の改善を図りました。

医師の確保対策については、総合水沢病院は内科、小児科及び整形外科で合わせて 6 人、まごころ病院で 1 人、医療局全体で 7 人の医師が相次いで退職し、医師不足がより深刻な状況となっております。今まで以上に医師の招へいに力を注いで経営の改善・安定化を図り、地域の要望に応えながら、2 病院 3 診療所の機能維持と連携を強化し、市民が安心できる地域医療の維持に努めてまいります。

なお、医療局全体に関わる業務を行う経営管理部について、昨年度まで総合水沢病院と一体のものとしていましたが、本年度からセグメントを分離させています。

経営状況については、入院患者数は 53,195 人（前年比 5,339 人減）、外来患者数（訪問看護を除く。）は 149,996 人（前年比 11,102 人減）となっており、一日当たりの平均患者数は入院で 145.7 人（前年度 160.4 人）、外来で 614.7 人（前年度 660.2 人）となりました。一般病床利用率は 68.7%で、前年度の 75.6%から 6.9 ポイントの減となっています。

医療局としての収益的収入及び支出（税抜）については、医業収益が 3,498,698,375 円、医業外収益が 1,337,199,432 円、訪問看護事業収益が 54,103,411 円、訪問看護事業外収益が 45,316 円、このほか特別利益が 115,700,733 円で、病院事業収益総計は 5,005,747,267 円となりました。

支出については、医業費用が 4,840,758,407 円、医業外費用については 165,785,514 円、訪問看護事業費用が 66,429,625 円、このほか特別損失が 240,754,047 円で、病院事業費用総額は 5,313,727,593 円となりました。

この結果、医業収支で 1,342,060,032 円の損失、経常収支で 182,927,012 円の損失となり、特別損益を含めた病院事業収支における純損益は 307,980,326 円の損失となりました。

また、資本的収入及び支出（税込）については、収入は 148,352,000 円、支出は 227,635,285 円となり、収入が支出に対して不足する額は過年度分損益勘定留保資金で補てんしました。

イ 医療機関ごとの状況

(ア) 総合水沢病院

医師数は前年度と比較し、6人減の合計13人となっています。入院患者数は36,948人で前年度と比較して8,123人(18.0%)の減となり、外来患者数(訪問看護を除く。)は71,770人で前年度と比較して11,449人(13.8%)の減となりました。訪問看護は、利用者数が3,653人となっています。

収益的収入(税抜)については、医業収益が2,361,189,260円、医業外収益が693,767,994円、訪問看護事業収益が32,422,636円、このほか特別利益が113,470,520円で、収益総額は3,200,850,410円となりました。

収益的支出(税抜)においては、医業費用が3,077,177,627円、医業外費用が92,403,539円、訪問看護事業費用が39,806,434円、このほか特別損失が238,473,538円で、支出総額は3,447,861,138円となりました。

この結果、医業収支では715,988,367円の損失、経常収支では122,007,710円の損失となり、特別損益を含めた純損益では247,010,728円の純損失となりました。

(イ) まごころ病院

医師数は前年度と比較し、緩和ケア科で1人減の合計9人となっています。入院患者数は14,094人で前年度と比較して2,304人(19.5%)の増となり、外来患者数(訪問看護を除く。)は51,490人で前年度と比較して180人(0.4%)の増となりました。訪問看護は、利用者数が1,425人となっています。

収益的収入(税抜)については、医業収益が823,551,492円、医業外収益が213,397,095円、訪問看護事業収益が9,486,559円、訪問看護事業外収益が10,334円、このほか特別利益が2,112,765円で、収益総額は1,048,558,245円となりました。

収益的支出(税抜)においては、医業費用が1,065,959,424円、医業外費用が39,641,471円、訪問看護事業費用が13,242,661円、このほか特別損失が645,003円で、支出総額は1,119,488,559円となりました。

この結果、医業収支では242,407,932円の損失、経常収支では72,398,076円の損失となり、特別損益を含めた純損益では70,930,314円の純損失となりました。

(ウ) 前沢診療所

平成28年5月から外来を再開して3年目を迎え、外来患者数(訪問看護を除く。)は6,727人で前年度と比較して631人(10.4%)の増となりました。なお、入院については引き続き休止しています。訪問看護は、利用者数が1,069人となっています。

収益的収入(税抜)については、医業収益が59,167,522円、医業外収益が149,111,085円、訪問看護事業収益が12,194,216円、訪問看護事業外収益が34,982円、このほか特別利益が117,448円で、収益総額は220,625,253円となりました。

収益的支出（税抜）においては、医業費用が 186,477,277 円、医業外費用が 16,945,979 円、訪問看護事業費用が 13,380,530 円、このほか特別損失が 1,135,750 円で、支出総額は 217,939,536 円となりました。

この結果、医業収支では 127,309,755 円の損失、経常収支では 3,704,019 円の利益となり、特別損益を含めた純損益では 2,685,717 円の純利益となりました。

（エ）衣川診療所

医師数は前年度と変わらず 1 人となっています。入院患者数は 2,153 人で前年度と比較して 480 人(28.7%)の増となり、外来患者数は 13,230 人で前年度と比較して 530 人(3.9%)の減となりました。

収益的収入（税抜）については、医業収益が 197,039,270 円、医業外収益が 154,613,223 円で、収益総額は 351,652,493 円となりました。

収益的支出（税抜）においては、医業費用が 338,004,129 円、医業外費用が 13,292,206 円、このほか特別損失が 493,230 円で、支出総額は 351,789,565 円となりました。

この結果、医業収支では 140,964,859 円の損失、経常収支では 356,158 円の利益となり、特別損益を含めた純損益では 137,072 円の純損失となりました。

（オ）衣川歯科診療所

医師数は前年度と変わらず 1 人となっています。外来患者数は 6,779 人で前年度と比較して 66 人（1.0%）の増となりました。

収益的収入（税抜）については、医業収益が 57,018,608 円、医業外収益が 39,599,143 円で、収益総額は 96,617,751 円となりました。

収益的支出（税抜）においては、医業費用が 86,954,085 円、医業外費用が 2,245,069 円、このほか特別損失が 6,526 円で、支出総額は 89,205,680 円となりました。

この結果、医業収支では 29,935,477 円の損失、経常収支では 7,418,597 円の利益となり、純損益では 7,412,071 円の純利益となりました。